

地域の生活者としての自覚を高める授業実践

教育デザインコース 家政領域
城間 若奈

1. はじめに

現行高等学校学習指導要領家庭編において、「地域」と関連付けた授業がより一層求められている。しかし高校生の地域に関する関心や生活者としての自覚は低いことが現状である。家庭科教育が目指す「より良い生活」を営むためには、家庭生活だけでなく地域の生活者としての視点も必要とされる。これからの社会の形成者として高校生が1日の大半を過ごす地域について知することは、より良いこれからの地域社会を創造することにつながると考える。

2. 目的

本研究では、地域の生活者としての自覚を高めるための授業実践を通して、高校生が地域をどのように捉えているのかについて分析し、授業前後の地域の意識の変化について明らかにする。

3. 方法

- (1) 授業中に作成した資料や課題内容からの分析
- (2) 授業後の感想コメントによる分析
- (3) 授業前後の地域に関するアンケートの実施及び分析

4. 授業概要

表1 授業の概要

・授業対象 神奈川県立K高等学校の2年生2クラス
・実施期間 Aクラス：2016年9月7日(第1次)【事前アンケート8月31日】 2016年9月12日(第2次)【事後アンケート9月12日】 Bクラス：2016年9月14日(第1次)【事前アンケート9月9日】 2016年10月21日(第2次)【事後アンケート10月21日】
・授業の目標 第1次 ①住環境を取り巻く4つの理念を理解し、自分の過ごす地域について考える。【イメージマップの作成】 ②自分の過ごす地域について多角的に捉え、地域の現状や課題を把握することができる。【かわら版の作成】 第2次 ①自分の過ごす地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深めることができる。【改善案の作成】 ②自分の過ごす地域をより良くするために、地域の生活課題の改善策を具体的に考えることができる。 ③より良い地域について多角的な視点から考え、創意工夫しながら作成した資料を発表し、地域とかわかることの重要性や必要性を自覚することができる。

5. 結果と考察

(1) 高校生の地域の捉え方

①イメージマップの内容より

対象とした高等学校の所在する地域は坂が多く利便性が悪いという特徴があるために悪いイメージを持つ生徒が多く、地域の良いところより悪いところを多く挙げる傾向にあった。学校の所在する地域を通学する場としか考えていないために、通学する上での利便性が地域のイメージに直結していると考えられる。そのイメージが、地域に対する愛着の低さにつながり、そ生活者としての自覚を意識

しにくくしている要因の一つでもあると考えられる。

②かわら版の内容より

イメージマップで浮かび上がった地域のイメージを住民へ発信するかわら版として文章化した事で、地域の理解が深まり、他のグループの評価も知ることができ、地域の多様な面で見える事につながった。単に通学する場所だけでなく、住民としての立場で見ると環境が良い場所であることの気づきにもなった。

③地域をより良くするための改善案より

生徒の考えた改善案は、日常的にできることや実現可能な案となっていた。目新しい案ではないものの、自分自身が無理なくできるものを考案しており、地域の一員としての自覚を高めるために一定の効果があつたと考えられる。

(2) 授業前後の地域への意識の変化

①授業後の感想コメントより

住環境の指標に基づいて地域を様々な視点から評価することができ、良い面に気付くことができている様子が見られた。しかし、まちにかかわる必要がある、かかわっていきたいと考えているものの、まだ他人事として捉えている生徒が多かった。

②授業前後のアンケート調査より

授業前後に実施した地域に関するアンケートの結果を表2に示す。地域にかかわっていくことの必要性の理解を高めることができ、高校生にとって地域への参加意欲を向上する一定の効果があつたと考えられるが、地域にかかわる意欲や態度(行動に移すこと)を高めるまでには至らなかった。

表2 アンケート結果 (N=64)

*: P<0.05 **: P<0.01				
	前/後	N	標準偏差	標準誤差
まちでのボランティアなどの社会的活動に参加してみたい	2.84	0.979	0.122	
	3.70	0.830	0.104	**
住み良いまちづくりのために自分から積極的に活動していきたい	2.86	0.924	0.115	
	3.67	0.909	0.114	**
まちのみんなと何かをすることで、自分の生活の豊かさを求めたい	3.02	0.968	0.121	
	3.70	0.987	0.120	**
まちの問題の解決には、地域住民と行政が対等な関係を築くことが重要	4.05	0.677	0.085	
	4.13	0.917	0.115	
まちをよくするためには、住民がすることに行政の側が積極的に協力すべき	3.84	0.821	0.103	
	4.05	0.898	0.112	
まちをよくするためには、住民みずから決定することが重要である	3.95	0.825	0.103	
	4.06	0.774	0.097	
学校のあるまちに、誇りとか愛着のようなものを感じている	3.22	1.119	0.140	
	3.44	0.957	0.120	
この土地にたまたま生活しているが、さして関心や愛着といったものはない	2.89	1.129	0.141	
	2.84	1.027	0.128	
人からこのまちの悪口をいわれたら、自分の悪口をいわれたような気になる	2.63	1.062	0.133	
	2.86	0.990	0.124	
学校のあるまちで住民運動が起きても、できればそれにかかわりたくない	3.52	1.023	0.128	
	3.33	0.944	0.118	
まちをよくするための活動は、熱心な人たちに任せておけばよい	2.95	0.916	0.114	**
	2.58	0.940	0.117	
まちでの環境整備は、行政に任せておけばよい	2.66	0.801	0.100	
	2.47	0.925	0.116	

6. 今後の課題

本研究における生活課題について考えるプロセスを重視した授業実践で留まるだけでなく、実際に生徒の考えた改善案の実践、実際の地域の生活課題に即した改善案の考案が求められる。